

2018(平成30)年度 大町岳陽高等学校 学校自己評価表

学校教育目標	重点目標	具体的な目標
1. 進取の気性に富み、豊かな心と健やかな身体を持った人間を育成する。 2. 真理を深く追求し、豊かな創造力と力強い実践力を持った人間を育成する。 3. 国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解するとともに、その将来を担う人間を育成する。	1. 学力向上と学習指導の充実 2. 生徒指導の充実 3. 大町岳陽高校の基盤作りの推進	1-① 授業の充実を図り、自主的な学習意欲を高め、学習習慣を確立させる。 ② 生徒自らが気づき・考え・実行する場面を設けるとともに、積極的に知的活動を行う力を養う。 ③ 多様な進路希望に対応するための研究と対策を行う。 2-① クラブ活動・生徒会活動など自主的活動の支援をする。 ② いじめについて職員・保護者・生徒の理解を深め、その対応に努める。 ③ 体罰についての認識を深め、根絶をするとともに、生徒の指導の充実を図る。 3-① 行事等の基本的な方針や運営を確立する。 ② 中学生・保護者・地域に向けた学校公開・情報発信を充実する。

係・教科・委員会	活動の基本方針	学校重点目標・評価観点の記号	重点目標	成果と課題	改善策・向上策
01 教務	(1)各種行事等の円滑な運営 (2)ICT機器等の授業における活用の促進 (3)学校教育活動の情報配信	3①,② 1, 2, 3	(1)校務支援システムを活用して、円滑な学校運営を図る。 (2)電子黒板等のICT機器を利用した授業の提案・活用を図る。 (3)情報配信システムを利用した生徒・保護者への情報配信を充実する。 (3)Webページを活用して、中学生や地域に的確な情報配信を行う。	(1)校務支援システムは、3学年調査書・1学期成績処理等で活用し、校務の効率化を図ることができた。 (2)教務でICT機器を管理しているが、プロジェクタの利用は、各先生方に定着してきている。 (3)情報配信システムでの配信数は80回を超えるなど、着実に利用されるようになってきている。 (3)タイムリーとはいかなかったが、確実に配信するよう努力した。	(1)次年度からは、出欠席などにも活用してさらなる効率化を目指す。 (2)ICT機器やケーブルなどの管理を徹底するとともに、さらなる拡充を図るために本数などを増やす。 (3)全校行事だけではなく、学年向けも保護者へ配信できるように、学年と連携を図る。 (4)中学生・地域の方々への配信をさらに増やす。
02 生徒指導	(1) 諸規則の徹底と指導 (2) 安全指導 ①交通安全②環境保全③性被害防止 (3) 相互信頼関係の確立(生徒会活動・クラブ活動等・いじめ防止他) (4) 他機関等との連携(保護者との連携、必要に応じて外部組織との連携、他) (5) 特別支援に関する理解と支援の充実(研修会参加、具体的な支援策の研究)	1-② 1-② 2-② 2-②	① 身だしなみを整える姿勢(高校生らしい髪型や正しい制服の着用など)や節度ある生活態度(上下履きの区別)の育成を図る。※学年生指係と担任、校風委員会との連携を図る。 ② 歩行時や自転車運転時の交通マナーの育成を図る。3年生進路決定者の普通免許取得の指導を徹底する。 ③ 性被害防止・情報モラルに対する指導の充実を図る。 ④ 相談室の実用化と生徒情報の共有を図る。 □	SNSに関する問題は昨年度と同様に今年度も1件であり、従来は多発していたが減少傾向にある。全体の指導事案の件数、また、外部からの苦情も僅かであり落ち着いていた。今年度大きなこととしては盗難被害が複数発生し、被害金額の総計も比較的高額となる事案が発生したことだった。生徒に対して学校に不必要な現金等を持ってこないこと、必要があり持ってきた際には管理に十分注意するよう指導するとともに、生徒指導係による見回りを実施した。その後の被害に関する報告はなかった。 生徒相談においては、相談室の開放やカウンセリング等の実施調整を随時実施してきた。特に授業に出席できない生徒については、担任、養護教諭、カウンセラー、関係職員と連携を図りながら対応を行っているが、今後更にきめ細やかな対応が必要とされる。	日常的に生徒の規範意識向上を図る取り組みが必要であり、学級担任や学年を中心に全職員で、また校風委員会とも連携して様々な角度からの呼びかけをしていきたい。また、学校の決まりに関わる細かな部分については、引き続き修正等を行うと共に、全職員の意識の統一も図りたい。そのためにも学年と連携を密にしながら、しっかりとした情報共有を行いたい。 また、生徒相談と生活指導の連携を更に高め、生徒や保護者等に対して適切な対応を行うためにも、担任、学年、養護教諭等、各係との協力体制の充実を図りたい。
03 進路指導	生徒自身が自己認識を深め自主的に自らの将来像を設計できるように組織的・継続的に指導支援を行う。そして3年間の高校生活の中から自立した社会人への基盤の構築を目標とする。	1-① ②③ 3-②	(1) 多様な進路希望の実現: 生徒の多様な進路希望実現のために、伸びる力を最大限伸ばし、早期から具体的な目標を伴った学力の向上を図るとともに個に応じた丁寧な学習支援・進路指導を組織的に行う。 (2) キャリア教育の充実 きめ細かいキャリア教育を通して、生徒が自らの能力・適性を発見し、社会的関心を深め国際的な視野に立って自主的に進路決定できるように支援する。 (3) 高大接続改革への対応 新しい学力の3要素に基づき、新共通テスト・英語4技能評価・総合的多面的評価等に的確に対応できるよう準備を進める。	(1) 多様な進路希望の実現:キャリア教育の充実に関して 進学指導は4年制大学推薦入試の結果は国公立大学はほぼ前年度並み(11⇒11)であったが、私立大学では一般推薦合格者が減少した(14⇒6)。推薦入試の比重が増加する中具体的な対策が望まれる。一般入試に関しては、普段の授業はもとよりセンター入試に対応した特編授業、補習授業を活用し実力養成に努めてきた。また進路講演会、研修旅行、進路合同HR、進路面談、職場見学、公務員ガイダンス等を通して、進路意識の向上に努めた。 (2) 高大接続改革への対応 総合的多面的評価に対応するためのeポートフォリオ作成に関してclassiの全校的な活用を行った。また英語4技能への対応に関してはGTEC・英検に取り組み低学年時より対応した。	(1) 多様な進路希望の実現に関して 幅の広い学力層と多様な進路希望、変化する進路環境に鑑み、学習習慣の確立・基礎学力の向上と探究的な活動の有効活用をめざしたい。 (2) 高大接続改革への対応 引き続きclassiの全校的な活用と英語4技能への対応を進めるとともに、大学入試共通テストについての対策を具体的に検討していきたい。
04 生徒会	(1) 各種行事の生徒による自主的な企画と運営 (2) 活動を通じて生徒の実践力とコミュニケーション力の能力を育成する。 (3) 伝統の継承と新たな活動の導入。 (4) アジアフなどの活動を通じて地域との交流を図る。	1-② 2-① 3-②	1. 自主性に富み、問題解決に積極的に取り組む生徒を育てる。 2. クラブ・委員会活動の活発な運営と活動の充実を図る。 3. 文化祭ではクラス学年を超えた枠組みでの行事について追求する 4. ホームページや体験入学を通じて岳陽高校生活の素晴らしさを中学生に発信していく。 5. 行事を通じて学校生活の充実を図る。 ア.自主的民主的な企画と運営。イ、行事の意義を明らかにする。ウ、帰宅時間、ルールの遵守と事故防止。	岳陽高校として生徒もそろい施設もそろっての出発となった。・岳嶺祭係長を一二月中に選出するなど、早めの準備ができた。大体育館を準備期間を通じて使用することができた。すべての企画について書類を提出・審議という形を取ったため、担当職員と連絡をしっかりと取ることができた。昔からあるステージを修復して使用したが、動きが制限されるためにやはり新しいステージが必要である。2年間経費を節減して、予算内に納めることができた。熱中症対策・水分補給は室内運営はできたが、中庭、校庭での企画は慎重に計画したい。信州総文祭は係の周到な準備のもと三年生の献身的な協力もあって、成功を収めた。	中夜祭(体育祭)に関しては慎重に計画を立てる。大体育館の仮設ステージ・スクリーンは学校設備の問題であるが、整備・新調をお願いしたい。アジアフ活動の年間を通じての学習が必要である。冊子の予算立ても必要である。生徒は教職員の指示を良く聞き素直であるが、自主的・自発的な力が落ちてきている。生徒会活動を通じて、生徒の力の向上を図りたい。

05 学習指導	生徒の一人一人の主体的な学習を支援しつつ、多様な「進路希望の実現」に対応できる学習指導体制の確立を目指す。	1-① ② ③ 3-①	1. 3年12月～1月期の学習指導体制の充実を図るための提案を行っていく。 2. サテライト講座の受講体制を実態に合ったものに改善していく。 3. 生徒の家庭学習の習慣づくりのための情報提供を行っていく。 4. 土曜・長期休業中・秋期の平日など各種補習の計画づくりと実施の支援。	1. 12月特編は白紙からのスタートで、幾つも課題があったが、学年・進路指導係との連携の下で基本計画を立案できたことは良かったと思う。 2. サテライト講座は何度も募集をかけ、学年にも動いて戴いたが、結局最低開講人数に達した講座が一つもなく実施できなかった。クラッシーが入ったことで、サテライト講座は役目を終えたと考えている。 3. 生徒の学習習慣づくりの情報提供はできなかった。但し、1学年とは発足前からスケジュール手帳の導入について打ち合わせをし、実施して戴くことができた。 4. 補習については生徒の希望に添った計画を立案でき、問題なく実施できた。春期学習合宿については、学年にお任せしてあるが、学年間の連絡調整は係が行うべきだった。	1. 12月特編については良かった点、課題点を検討して、次年度に向けて改善していきたい。 2. サテライト講座は来年度は実施しない方向でいきたい。但し、学年の以降は最大限尊重したい。 3. スケジュール手帳については引き続き導入を呼びかけていきたい。 4. 補習については早めに計画立案し、生徒職員に準備検討する期間を保障したい。
06 保健	1. 自他を大切にし、主体的に健康的な生活を送ることができる生徒を育てる。 2. 開放的な保健室運営をする。	2-① ②③ 3-① ②	1. 健康診断、日常の健康観察から疾病を早期に発見し、早期治療に結びつける。必要な情報発信をする。 2. 心身の健康問題の早期発見、早期対応に向けた健康観察、健康相談の充実を図る。保健室の環境整備を行う。 3. 感染症等については、早期に情報共有し、最悪を想定しながら、慎重に、迅速に、誠実に、組織で、対応する。	1. 学年単位の連日3日間の健康診断は生徒が落ち着いて受検でき、又欠席者のフォローもでき、成果が上がった。測定者(職員)・補助係の協力が無いと実施できない。2. 開放的な保健室運営を目指し、来室者に対しては、思春期の特性を常に頭に置きながら、丁寧な対応ができた。また、関係者と連携がとれた。3. 感染症対応は職員会で対応マニュアルを説明し、早期の情報共有がとれた。教室等の換気が中々されない。	引き続き、健康診断等にご理解ご協力をお願いしていく。開放的な保健室を目指す。生徒の訴えに迅速に対応していく。感染症・熱中症に対して対応していく。
07 清掃	1. 生徒各自が環境への理解を深め、学校外・地域社会でも活動できる積極性を養う 2. ゴミの減量化や分別に取り組む 3. 教育活動の場にふさわしい環境で日々快適に活動出来るように校舎内外の美化に努める	2-① ② 3-① ②	1. 生徒、職員全員で校舎内外の清掃美化に努める 2. ゴミの分別処理・減量化に努め環境への理解を深める 3. 各種活動を通して、地域の一員として環境美化や奉仕の心をはぐくむ	清掃通信を数号発行し、ゴミの減量や紙のリサイクル促進、清掃の呼びかけなどを生徒へ周知する一方で、職員会を通じ、職員にも呼びかけた。さらに紙回収ボックスを各クラスとゴミステーションに置き、リサイクル体制を敷いた。ワックスがけを2度行って、南北校舎の床を整備した。一方でワックス塗布量の見込み違いが発生した点が課題となった。	ワックス塗布に使用する量があらかた分かったので、来年度は適正なワックス量でワックスがけをしていく。
08 図書館	1. 学習センターとしての役割を果たす 2. 情報センターとしての役割をはたす 3. 気持ちの安らぐ場を提供する	1-②	1. 課題研究や総合的な学習などとおして、情報活用能力を身につけさせるための指導 2. 著作権に基づいた情報利用の周知と推進 3. 図書委員会活動の活性化 4. 図書館から情報を発信することで、図書館の利用を促進する 5. 他の図書館との連携 6. 図書館を利用する授業に対応できるよう、図書館資料や図書館用品を充実させる。	・図書館オリエンテーションや図書館を使った授業を通して参考文献の記述方法を指導した。資料の相談以外にも、課題研究の進め方や発表の内容についてアドバイスした。 ・レポート学習や課題研究で、情報検索やレポート作成・提出、プレゼンテーション用のスライド作成などに、タブレットが活発に利用された。昼休みや放課後、自主的にタブレットを利用する生徒も多数いた。 ・日常の図書当番活動はもとより、各行事毎に仕事の打ち合わせを行い、図書委員全員が活動できる場を設定した。 ・全職員の協力を得て、読書旬間中に「惹句大賞」を実施し、生徒、職員に投票をしてもらった。読書に対する興味関心を、生徒だけでなく、職員間でも話せる場を作ることができた。 ・読書週間、文化祭、読書旬間などに、積極的にビブリオバトルを実施した。県予選会に今年度はバトラーとして5名が参加し、うち1名は決勝に進出した。また、県内14校を遠隔会議システムでつないだ「電脳ビブリオバトル学校対抗」の企画・運営を、第2回の今年度も行った。 ・他の図書館との連携は相互貸借を行うなど必要に応じて行った。 ・図書館利用の要望に対応すべく努力はしてきたが、予算の都合上すべてには応えられなかった。 ・図書委員会主催のイベント(バレンタインデー、ホワイトデー、ブックカフェ)を積極的に開催した。また、「本気のかきた大会」を実施し、文化的素養の涵養に努めた。 ・図書館のミニ講演会を今年度は4回実施した。いずれの回も生徒、職員に非常に好評であった。 ・3学年の普通科で始まった週1回の朝読書は、学習や部活動などで多忙な中、貴重な読書の時間となった。 ・7月、進路学習用ブックリストを2種類作成し、配布した。小論文や面接対策など、自分の進路に向けて必要かつ重要な読書に対応できた。	・図書費、需要費の増額。 ・タブレットが授業で積極的に利用される中で、不具合がいくつか指摘された。 ・40台のタブレットを同時に動かすと回線の容量が足りず、しばしばフリーズする。回線の容量やアクセスポイントを増やすなどの対策が必要。せっかく1人1台用意されているのに、同時に動かせるタブレット台数を20台程度(2人で1台)に制限せざるを得ないのは非常に残念である。 ・3階以外の教室に充電ロッカー(1台につき20台のタブレット収納)ごと移動させるのは極めて難しい。教室のある各階に充電ロッカーとタブレットがそれぞれ必要な台数ほしい。 ・HDMIのミニプラグが壊れやすい。HDMIケーブルが不足気味。貸し出し、返却の管理を徹底する必要がある。 ・椅子と閲覧テーブルを、図書館での学習活動にふさわしい豊かなものに更新する。閲覧テーブルについては、今年度、卒業記念品として2台更新できることに感謝している。合計4台が更新される予定。生徒・職員が更に図書館を利用してもらえようになればと思う。 ・図書に親しみ、読書を楽しんでもらったり、研究活動に活用してもらったりすることで、毎年貸出冊数が生徒・職員ともに県平均以上になるようにする。
9 渉外	新しい岳陽高校の良い環境づくりのために同窓会、PTAが一丸となってできる限りサポートしていく。		1. 開校記念式典行事につき検討し実施に参加する。 2. 同窓会による生徒支援内容の検討と依頼をする。 3. 各種会議に出席して、学校の近況を報告し同窓会と学校の調整をはかる。 4. 会員からの意見、要望を吸い上げ、より良い学校づくりに活かす。 5. 文化祭、アジアフなどの行事には積極的に参加する。 6. 外部のPTA連絡協議会に参加して、共同の輪を広げる。	多くの先生方、保護者・同窓会役員の協力のもと無事式典を行うことができた。文化祭等の行事も協力が得られた。生徒会係より提案された新しいクラブ派遣費の規定を保護者に理解していただきスムーズな運営ができるよう協力する。	岳陽高校の魅力の発信を同窓会などと協力しながら検討していきたい。
10 国語	1. 国語を的確に理解し、適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2. 言語文化に接しながら、言語感覚を磨き、判断、評価する力、論理能力、類推能力を身につけ、感性豊かな人間性を涵養する。	1-① 1-② 1-③	1. 生徒の実態に応じた適切な教材を選択し、必要とされる主体的言語能力と感受性を身につける。 2. 系統的な論理的、心情的文章の読解学習を通じて、自ら考え進路実現に対応する応用力、実践力を育成する。 3. 統合後の課題に応じた教育課程の見直しを図る。	・語彙力養成を目的に、年間を通して計画的にドリル(漢字・古文単語)を実施できた。 ・classi、ICT機器の活用機会も増えている。 ・きめ細かく問題集への取り組みを確認し、学習習慣の定着に努めた。 ・進学希望者対象の補習、成績不振者の補習を実施を通して個々の生徒へきめ細かく指導できた。 ・普通科においては一部の科目で習熟度に合わせた講座編成が必要になっている。	・普通科のクラスにおいては習熟度別の講座編成も検討してみる。

11 地歴公民	平和で民主的な社会の構成員としての自覚と資質を養うとともに、豊かな知性と国際的な視野を育む。	1-① 1-② 1-③	1. 基礎的・基本的な知識の定着と探究心の養成をはかる。 2. 生徒が主体的に学習できる方法を研究し、自主的精神に満ちた生徒の育成をはかる。 3. 生徒の意見・感想を授業に生かしていく。	1. ノート提出を課すとともに各自のノート作りの努力も評価し積極的に授業に取り組む姿勢を育むことに努めた。この他に、成績不振者に補習授業を行うとともに、進学希望者に対する補習授業や特編授業をおこない得点力向上に努めた。 2. 授業におけるIT機器の活用やレポート学習、映像資料を観て内容に関する意見交換をさせる取り組みなどを通じて、生徒が主体的に考え学ぶことができるよう授業の改革に取り組んだ。 3. 授業評価を通じて生徒の意見を参考に授業をより良いものにするよう努力した。	・基礎的な知識の習得も重視しつつ、生徒の意欲・関心を高める授業の研究や工夫をさらに進める必要がある。 ・各学年・学科、科目間の情報共有をさらに深め、3年間を通じた獲得目標を教科全体で明確にする必要がある。
12 数学	1. 生徒の実態に合った指導を行い、学習習慣を確立させ、試験で通用する数学力を身につけさせる。 2. 将来社会へ出て通用する数学的思考力や分析力、及び解析力、判断力をはじめ、知恵としての数学力を身につけさせる。	1-① 1-② 1-③	1. 個々の生徒にきめ細かく対応し、よりわかりやすい指導を目指す。特に2年生では、数学IIとBの文系と理系の進度や内容をきめ細かく対応する。また、3年普通科の数学IIIでは、進度の遅れを改善する。 2. 数学科通信により、各種情報の発信を充実する。 3. ネットワークを利用した数学科指導管理システムを構築し、活用する。①成績処理 ②テスト問題等 ③小テスト ④演習帳の点検 ⑤教材 ⑥課題 ⑦解答 ⑧連絡 4. 新しい教育課程の入試の研究を行い、適切に対応する。 5. 探求課題に取り組む生徒の支援を充実させる。 6. 到達度の目標として実用数学技能検定をより活用する。①挑戦者を増やす ②指導の充実 ③合格率アップ	1. 1年生：定期テストなど追試を合格するまで行うなど個々の生徒にきめ細かく指導ができた。 2 学年：Study-upなどの提出をきめ細かく行い、学習習慣の確立ができた。 3 学年：普通科数学IIIは全範囲を終えることが出来た。また、3学年の他の講座も受験対策に対応した授業が出来た。 しかし、旧大町と比べるとかなりの学力差があり、一斉授業を行うことが厳しくなってきた。 2. 数学検定の連絡や数学の様々な情報発信を通して生徒の興味関心を高められた。 3. システムに問題はないが、形式的な評価に陥る傾向がある。 4. デジタル教科書等を利用する教員が増え、ICT機器の活用機会も増えている。	・数学の学力差が非常に大きく、その生徒達のフォローを毎時間の授業において行っていくために少人数習熟度別授業の継続が必要である。 今後の対策 ① 具体的には、1、2年生のようにテスト結果で分割すると、クラス替えに対する精神的不安のケアについて検討しなければならない。3年生については、進路別の選択なので、精神的な不安は心配ないのだが、希望と実際の習熟度の差が大きい生徒に対しては厳しい授業となることから、どのような基準で分割するか、その方法について研究していかなければならない。 ② クラス分けの人数配分は、上位クラスの人数、下位クラスの人数を習熟度別クラス、普通クラス、文系、理系それぞれで適正はどれ位か研究する必要がある。特に、2学年の学究科も文系2講座、理系2講座に分けて授業が必要になってきている。 ③ 各レベルのクラスにおける授業内容は、各レベルのクラスごとにしっかりとした指導計画を作成してクラス間、教員間での授業内容を合わせる必要がある。
13 理科	自然に対する関心や探求心を高め、実験・観察などを行い、自然の現象・事物についての理解を深める。	1-① ①②③ 2-① 3-③	1. 基礎科目では、実験・観察を取り入れながら、科学に対する興味・関心を高めさせるとともに、基礎を定着させる。 2. 授業（実験）の中で、生徒自身が予想を立て、正しく結果を導く方法を学び、結果をまとめ、結果から考察する場面を設けることで、科学的な思考力や表現力を育成する。 3. 上記1・2を通じて、生徒の多様な進路希望に対応する。	1. 基礎科目では実際に生物や現象を提示することを心がけ、生徒が実感できる指導できた。生徒実験の回数も確保しながら、興味関心を高める取り組みを実践した。 2. 生徒の考えをタブレット等の機材を活用することで表現し、クラス全体で共有する取り組んだ。 3. 昨年に続きセンター試験の平均得点率が全国平均に近づく科目もみられた。しかし、特に普通科においては、発展科目の選択科目数の制限から、授業時間数の確保が困難さがあり、特編授業期間まで教科書範囲の授業をせざるを得ない状況が生じたものもあり、より計画的な受験対策が必要であった。	・基礎事項の定着をはかるために、冬季休業中に9ヶ月の学習事項を振り返る課題への取り組み、休業明けに確認テストを実施等を検討する。 ・来年度は普通科選択科目化学探究αを開講しないことより、今年度同様の困難が予想されるため、夏季休業前から受験対策補習を行う等の対応が必要。
14 保健体育	1. 生徒の特性等を十分に考慮し、内容の決定、各内容の授業時数、単元の構成及び配列等を的確に定めた指導計画を作成し、実践する。 2. 生涯を通じてスポーツに親しめる能力を養うため、選択体育を導入し自らスポーツ活動を実践できる力を養う。	1-①② ③	1. 集団の一員としての自覚とルールに沿った思いやりのある生徒の育成をめざす。公正な態度で仲間と接し、運動の楽しさを体験させる。 2. 全生徒に新体力テストを行い、個々の運動能力を理解させ、自己の能力に適した課題を持たせて運動に取り組ませる。 3. 大体育館が完成するため、幅広い運動に触れる機会を設けることにより、課題設定の仕方や解決の仕方を考えさせ自主性を養わせる。	・新体育館の完成に伴い、選択制授業の充実を図ることができた。 ・体づくり運動では、生徒たちが楽しめる運動を開発することができた。 ・準備運動等、生徒が自ら進んで授業に取り組む能力を身につけることができた。	・6月から大体育館が完成したため、生徒の運動量の確保がされるようになった。各種目の単元計画を綿密に考えて、より体力や運動能力の向上に努めたい。 ・通年をとおして、無駄なく体育施設が活用できるように年間計画の見直しを推めたい。
15 音楽	(1)音Ⅰ・Ⅱ・Ⅲー音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 (2)音Ⅱー(1)に加え、芸術文化についての理解と、個性豊かな表現の能力・主体的な鑑賞の能力を伸ばす。 (3)音Ⅲー(1)(2)に加え感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。 (4)吹奏楽部の活動の充実。	1-① ②③ 2-①	1. 様々な音楽活動を通して、音楽に関する知識技能を高め感性を育む。 2. 創造的な表現に必要な読解力、読譜力の習得を目指す。 3. 実技において、表現の工夫を充実させる。 4. 吹奏楽部の活動の充実。	音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅲ、器楽表現、いずれの科目も予定していた授業はできた。音楽Ⅰでは、音楽ノートを使用し基礎的な音楽理論の指導をした。音楽Ⅱ、音楽Ⅲでは、発展的な音楽活動に取り組んだ。年間通して歌うことを重視し、授業では必ず歌う時間を設けた。	・新学習指導要領に対応できるようにする。 ・年間指導計画の見直しをする。 ・教材研究、指導方法の研究を深める。
美術	1. 美術の幅広い創造活動を通して、感性を磨き表現の能力を養う。 2. 鑑賞活動を充実させ、お互いの個性や感性を尊重し合う態度を育む。	1-① 1-② 1-③	1. 生活の中にある美しいものに気づき芸術に対する興味・関心を高めさせ、自己の内面に目を向けた表現力を育む。 2. 鑑賞活動やグループワークの時間を充実させ、生徒同士の対話の時間を設ける。	・全学年を通して、生徒にとって身近な題材や素材を扱うことができた。生活の中にある美術や工芸について考えさせることができた。 ・美術Ⅰでは教科書に沿いながら基礎的な表現技法を指導した。 ・美術Ⅱ、Ⅲでは抽象的なテーマや自由制作を設け、創造力を高めさせることができた。 ・工芸Ⅰでは、伝統工芸について理解を深めながら制作を進めることができた。	・グループワークの時間を増やし、生徒同士の対話だけでなく、生徒が相互理解できる場となるように工夫をする。
書道	1. 書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と、書の伝統と文化を尊重する態度を育てる。 2. 感性を磨き、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。	1-① 1-② 1-③	1. 多様な書活動を通して、書に関する知識技能を高めるとともに個々の感性・個性を育む。 2. 身の回りにある書に触れる機会を設けることで、書に対しての親しみや関心を高めさせる。 3. 鑑賞や自己分析・自己評価などを取り入れ、生徒自らが気づき、表現することを目指す。	・多様な書活動を実施できたものの、学年によって差ができてしまった。 ・グループで身の回りにある書を探し、発表することで自分の住んでいる地域はもちろん、他の地域にある幅広い書に触れることができた。 ・周りの生徒の字を鑑賞する機会を設けることで、互いにアドバイスをし、また自分自身の作品の改善点に気づく生徒が増えてきている。生徒が改善点を気付いたあとの表現する力をさらに伸ばしていくことが課題である。	・年間指導計画を見直す。 ・ICT機器の活用をさらに増やしていく。

教科

16 英語	1. 中学英語と高校英語の接続を意識して基礎学力の定着を図る。 2. 英語4技能の総合的能力の向上を目指す。 3. 英語学習が世界の多様性を理解するための「窓」となるように配慮する。	1-① 1-② 1-③	1. 課題・小テスト・ドリル等により学習習慣と基礎学力の定着を目指す。 2. ALTと連携した授業により、身近な「グローバル」を体感するとともに、英語の各技能の向上を図る。 3. 生徒の進路を見据え、個と期に応じた教材の選定と波及効果の高い授業・指導を行う。	・週末課題、小テスト、ドリル等を年間を通じて行うことで学習習慣確立の一助とすることができた。自立した学習者を育てるのには更なる工夫と仕掛けが必要であると思われる。 ・英語検定に関しては昨年度の述べ受検者数(145名)を上回る160名超が受験をし、英語学習の重要な柱の一つとなっている。新たな制度への対応も含めさらに推奨と研究を深めたい。	・新たな入試制度を見据え、GTEC及び英語検定を中心に研究と対策を進める。 ・英語で表現、発信する力をさらに伸ばすための指導を検討し充実させていく必要がある。
17 家庭	1. よりよく生きるために必要な知識技術を学ぶ。 2. 生活に関する事柄に関心を向け問題意識を持って主体的に学ぶことができるようにする。	1-① ②	1. 生徒の生活にできるだけ身近な教材や実習を取り入れる。 2. 生徒に考えさせ、発表をする機会をつくる。	1. 食分野では朝食や弁当の献立を実際に考える実習、衣分野では洗剤の特性について確認する実験、保育分野では子育て中の男女の生活時間から考えるワーク、消費分野では将来の生活設計についてシミュレーションを行うカードゲームなど、各分野において生徒の現在や将来の生活に即した体験的な活動を行うことができた。 2. 生徒に考えさせる活動として個々にレポートを書いたり、グループでまとめる活動を行った。また、グループワークやペアワークなどを通して自分の意見を発信する機会を設けた。	1. 分野によっては座学やノート学習が主になってしまうものもあったので、生徒の生活や将来、興味関心に合わせた教材研究をさらに深めていく。 2. その場の雰囲気によって話し合いが活発になる場合とそうでない場合があるため、生徒が意見交換をしやすいテーマの設定や助言を考える。全体に向けて発表する機会を設け、先に繋がるような学習方法を身に付けさせる。
18 情報	1. 情報の収集・処理・発信などの情報活用能力を身につけさせる。 2. 自ら課題を見つけ、情報技術を駆使して解決していく能力を身につけさせる。 3. 情報技術を主体的に活用し、情報社会に主体的に参加する態度を身につけさせる。	1-① 1-②	①教科書の内容からコンピュータの特性や情報通信ネットワークの仕組みなどの基礎知識を身につけさせ、実習・演習を多く取り入れ、定着を図る。 ②調べ学習を行わせ、その内容を発表させる。 ③社会の変化に応じた教材を取り入れる。	①授業の半分を超える実習を取り入れることにより、基礎知識の定着を目指し、WORDやEXCELのスキルなどをプリントへの記入をしながら、操作について説明をして生徒にある程度定着させることができた。 ①キーボード入力や中学までの経験値に差があるので、年間を通じてタイピング練習を行った。 ②2年学究科では、探究的学習に取り組み、生徒が課題を見つけ出し、解決策を考える一連の流れを学習できた。一方、普通科では時間数の関係から十分に取り組むことができなかった。	①定着度合いを測るための、課題や小テストも検討する。 ②年間の授業を見直して、扱う項目等を精選しながら授業展開を考える。 ③さらに生徒が興味・関心をひくような題材を考える。
商業	1. ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、社会の変化に柔軟に対応できる資質とモラルを育成する。 2. 商業に関する資格取得を目指し、多様な進路実現を図るために学力を育成する。	1-① 1-②	①ビジネスマナーに準じた挨拶・見だしなみ等を身につけさせる。 ②資格取得という目標を持たせ、自ら意欲的に学習する態度を培う。	①長野県総合教育センターでの生徒実習を行い、環境を変えた授業展開を行った。学校だけではない学習で生徒に興味・関心を持たせることができた。しかし、年間を通すとなかなか授業展開に難しさがあった。 ②検定試験の掲示を各クラスに行い、授業受講者だけでなく、受験者も現れてきたことにより、合格者も増加した。	①授業内容をもう一度見直し、生徒の興味・関心を引く題材を考える。 ②年間を通した取り組みから、基礎学力の定着や学習態度を身につけさせる。
19 1学年	1. 生徒が自主的にかつ、自立した高校生活を通して成長できるための支援を行う。 2. 他者との関わりの中でお互いに尊重できる生徒集団の育成。		1. 基本的生活習慣の確立。(時間厳守、期限厳守等) 2. 学習習慣の定着。(家庭学習の充実) 3. 自己管理能力の育成。(スケジュール帳の実施) 4. 自主活動への取り組みの充実。(クラブ・生徒会活動・学校行事への取り組みと記録) 5. コミュニケーション力の育成(挨拶の励行)	1 授業の開始や集会等の集合時間の厳守については全体としてできている。また、机周りやロッカー等の整理整頓についても定着している。 2 宿題や課題の提出については意識できている者が多いが、家庭学習習慣については個々により差がついてしまった。一方で土曜補習については当初より参加人数は減少したが90名ほどの生徒が継続して参加しており、学習集団の核を形成することはできた。 3 各自、予定の把握や私物の管理等、全体としてしっかりとできている。スケジュール帳の活用については個人により差があり、更に有効活用のための改善が必要である。 4 多くの生徒がクラブや生徒会活動によく取り組んでいるが、2年に向けて途中で辞めてしまった生徒への対応は必要である。 5 多くの生徒が能く挨拶を行う事ができている。	全体としてはよく取り組んでいる中で、2の学習習慣については、各教科・進路係と連携を取りながら、改善を行っていく。具体的には、スタディサポートや進路意識調査等の結果を踏まえ、面談指導を充実させる。更に進路学習を充実させ、進路目標を明確にさせることで自主的に学習に取り組めるようにしたい。また、進学補習の他に学力補充のための補習を行うことで学習習慣の習得につなげていきたい。
20 2学年	1. 生徒が自己の生活目標を明確に自覚し、有意義な学校生活となるよう支援する。 2. 互いに認め合い支えあえる生徒集団の育成。		1. 基本的生活習慣の確立 2. 授業への集中と予習・復習など自立した学習習慣の定着 3. 進路を見通した基本的学力の構築と、発展的学習への挑戦 4. ホームルーム・生徒会・クラブ活動など自主活動の充実と岳陽精神の涵養 5. 挨拶の励行と自他を大切にしたい コミュニケーション能力の育成	1 怠学による無断欠席や早退等は比較的少ない。一方で、1年次はもちこたえたが、2年になってから対人関係や学力不振に起因する不登校に陥るケースがみられた。 2 アンケートやクラッシュの回答より学習習慣を確立できない生徒が一定量占めていることが伺える。学習活動に期待が持てない生徒への対応が課題。 3. 研修旅行自体が大きな行事であったが、その事前準備としてのグループ学習等、進路選択に向けて主体的に考える姿勢を育てる意味で効果が大きかった。 4 生徒会役員選には多く者が立候補したように、周囲・社会と自ら関わっていくこととする意欲をもつ生徒が各部署に育っている。しかし、活動の道筋を決定していく場面において教師に強く依存するケースが多く、自主活動のねらいに到達して行くには根強い指導の継続が必要。 5 気持ちのよい挨拶を心がける生徒が多いが、周りの気持ちに無頓着な振る舞いをするケースも見られた。	1 校風の乱れ(制服・頭髪・化粧・装飾品等)が合わずに学校生活に違和感を感じる生徒のストレスを取り除いていくよう対応する必要がある。考査時等多くの目でじっくり生徒のようすを注視し指導期間を設けていくなど。 2 個々の進路目標を達成するために必要な到達点が明確に認識できるよう家庭も含めて個別面談・指導の充実を図る。 5 年間を通じて金曜発行人を原則として学年通信を多くの職員から発信した。様々な方法場面を通じ、生徒保護者の相談窓口を拓く。そういった関わりの中から未熟な部分に気付き改善を図る。

学年	21 3学年	1. 新たな伝統の礎を築く。 2. 互いに認め合いながら支えあう生徒集団の育成。		① それぞれの希望に応じた進路実現を図る ② 基本的な生活習慣の確立 ③ 授業への集中と予習・復習など自立した学習習慣の確立 ④ 進路を見通した発展的学習への挑戦 ⑤ ホームルーム・生徒会・クラブ活動など自主活動の充実と岳陽精神の涵養 ⑥ 挨拶の励行と自他を大切にコミュニケーション能力の育成	・岳陽の「PIONEER」たれという姿勢で、学年として一致して指導に当たってきた。生徒たちは、一部学習や学校生活に前向きでない生徒がいたのが残念であったが、ほとんどの生徒は、非常に礼儀正しく素直でまじめにかつ緊張感をもって学校生活を送ってくることができた。 ・秋口からは、進路を控えてそれぞれの生徒が、自分の問題として捉え、進路実現につなげていく姿が見られ、補習授業や学習スペース、思文堂などを有効に活用する姿が見られた。 ・進路指導について、大学進学者等については、センター試験受験の意義などについて丁寧に説明し、大町高校以来の伝統を引き継ぐべく、意識の共通化を図り、また北高で行われてきたアジアフ活動のよさなども活かした推薦入試への対応や就職指導を受け継ぐような進路指導を心掛けた。 就職は、一部意識や取り組みが遅い生徒がいたものの、公務員も含め、ほぼ全員が希望する進路を選択できた。 ・就職や推薦入試については、従来の形を踏襲し、全職員の協力の下、生徒個々の担当を決めるなどの指導体制を組むことができた。 補習授業は土曜補習に加え、秋口からは平日補習も行った。中には登録するだけの生徒や長続きしない生徒も見受けられたが、多くの前向きな生徒は最後まで継続的に取り組んだ。 ・特別編成授業に向けては、学究科全員と普通科の4年制大学進学希望者を対象に組んだ。教室、教員等多くの問題もあったが、全校の先生方のご協力でなんとかやりくりすることができた。また、生徒は自習も含めて極めてまじめに取り組んでいる。 ・生徒会の中心学年として文化祭やクラスマッチではリーダーとして牽引役となる一方、クラスも一丸となって行事に取り組む姿勢が見られた。また部活動の継続率も高かった。 ・3年生で全校登山に参加した生徒は、非常に満足度が高く、その後の高校生活（推薦入試なども含め）にもプラスに働いている。 ・特別編成授業の在り方については、一定の成果があがったと考えるが、さらに良き方法を検討していく必要がある。 ・学年末考査の持ち方、また年度末成績評価の出し方については、同一基準で出せるように検討する必要がある。検討の必要がある。	・大町岳陽高校としての3年を一つのサイクルと考え、ここまでの到達点の整理と反省を早い段階で行い、中長期ビジョンを見据えて、2年先の大学入試制度改革などへの対応が遅れないように準備をする。 ・進路指導については、今年度の特別編成授業の形態を一つのモデルとして次年度早い段階から検討し、よりよい形にしていく。 ・全校登山については3年生も参加できるように卒組みをしっかり残しておく。
	22 教育課程	1. 教育課程表の検証 2. 講座編成の検討	1-① 1-③	①教育課程について、各教科で検討を行い、シラバスに沿った授業が展開されているか確認する。 ②生徒の進路希望等に沿った講座編成を検討する。	①② 現在までに14回委員会を開催し、教育課程の見直し、講座編成を検討してきた。すべての生徒の希望にそえたとは言えないかもしれないが、早い段階から帯表を検討するなどしてある程度対応することができた。	新学習指導要領の実施に向けて、新教育課程を編成する必要がある。大町岳陽高校の将来像を見据えながら検討していきたい。
委員会	25 学究科運営	・大町高校理科の理念や目的を引き継ぎ、新しい学究科の活動へつなげる。 ・2年学究科課題研究では、今までの自然科学分野の研究に加え、人文科学分野の研究も行う。 ・『中高生の科学研究実践活動推進プログラム』に参加して積極的に地域や他の団体との連携を深める。	1-② 2-② 3-① ②③	■学究科行事の運営 ①学究科講演会（東京工業大との連携） ②課題研究（東京工業大、山岳博物館との連携） ③校外実習・湿原自然観察会 ・センター実習（1年総合教育センター） ④科学コンクールなどへの出品 ⑤研究大会参加 ⑥信大と連携模索（体験学習・学校見学）	■ ①1, 2年学究科講演会12/10(空き家の学校のつながりで、東京大学・信州大学の先生から講演、ワークショップ：テーマ「地域の財産を考える」) ②火曜日の放課後に実施(校内研究、ほか東工大との連携)1/29: 課題研究発表会 ③親海湿原自然観察会(信州サイエンスアソシエーションプログラムSAP利用: 6/20)、総合教育センター実習(11/12: 1-5、11/14: 1-6)その他SAP利用でG岳陽サイエンスアソ ④日本惑星科学連合ポスター発表5/19、20、科学の甲子園参加11/17、課題研究合同研修会12/22、信州サイエンスミーティング3/3 ⑤長野県理数教育研究会11/6@飯山高 ⑥特になし	・2019年度入学生より総合的な探究の時間が3単位実施にあたり、学究科のみならず普通科にも探究学習の計画立案をする。 ・2020年度全国理数科教育研究大会理科部会長野県代表として参加するための準備を進める。 ・「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」終了にあたり、SAPの利用など研究に対する取り組みや研究費などについて検討を進める。 ・学究科運営に関する校内の体制作りに努める。
	28 学校保健安全	1. 心身共に健康な生徒の育成 2. 健康・安全の啓発	1-② 2-①	1. 生徒保健委員会を通じて、自他の健康に関心を持てる生徒を育成する。 2. 関係諸機関との連絡を密にして、心身の健康上の問題点の明確化に努める。 3. 学校保健安全委員会を開催する。 4. 救急救命(AED)講習(3回以上)、保健講話等を実施する。 5. 保健安全通信を(24回以上)発行する。	・生徒保健委員会は行事の救急処置、ハンドソープの補充、欠席調査等自主的に組織的にほぼ活動できた。 ・学校保健衛生委員会を開催予定。(2月19日)学校医、学校関係職員、PTA保護者と今年度の保健管理、環境衛生管理の結果を共有し、意見交換する。(次年度へ繋げる) ・1学年生徒へ保健講話を実施する。信州大学出前講座「感染症から身を守る」ノロウイルス・インフルエンザ等感染症に対しての正しい予防意識を高める機会となった。	・学校保健安全計画の立案 ・学校保健衛生委員会での協議事項をいかしながら、引き続き保健管理、環境衛生管理を充実させていく。
33 教育サポート	本校生徒が、それぞれの特性や能力を十分発揮できるように支援体制をとっていく。そのために次の4項目を基本方針とする。 1 総合対策 2 相談支援体制 3 教職員研修 4 学校・家庭・地域・関連機関の連携	1-① 2-③ 3-①	1 支援が必要な生徒の状況を把握し、担任、学年と連携しながら組織的に対応する。 2 校内委員会を定期的に開催し、支援が必要な生徒を早期に把握し、具体的な支援のあり方や保護者・外部機関との連携を推進する。 3 校内研修の充実と外部研修への参加を促す。 4 関係機関との連絡を密にして事前に対策・指導を行う。	・個別の生徒に対して支援会議を開催し、情報の共有・支援に努めることができた。本年度は、支援の方向性を委員会から提案することにより、同一の指針に沿った指導を行うことができた。支援の必要な生徒に対して、定期的な面談を行うことで、学校生活に対する不安を和らげ、見通しを持たせることができた。また、状況に応じた外部機関との連携等速やかに行うことができた。	教員の生徒理解に対する資質の向上に重点を置き、生徒及び保護者に対して適切な対応が取れるように、効果的な研修を行いたい。	

34	いじめ防止	どのような社会にあっても、いじめは許されない。いじめめる側が悪いという認識に立ち、毅然とした態度で指導する。また、いじめられている生徒の立場にたって心に寄り添う指導を行う。	2	<ol style="list-style-type: none"> いじめの未然防止・早期発見に向けて、教育相談、個人面談、生活実態調査を通じた、情報収集をおこなう。 相談窓口の周知を図り、いじめに関する相談をしやすい環境作りを推進する。 いじめ被害などの相談に対して、担任、学年、生徒指導係等と連携して迅速に状況を確認し対応を行う。 	個人面談、いじめアンケートなどを通じて情報の収集を行った。生徒が不安や悩みを抱え込むことの無いよう、年度当初に、相談窓口の周知を図った。	SNSを通じた誹謗中傷など、目に見えにくい場面でのいじめなどにも目を配りながら、幅広く情報収集を行い、生徒指導係、クラス担任との連携を図りながら、いじめの未然防止に努める。
35	コンプライアンス	非違行為等の防止	2-③	<ol style="list-style-type: none"> 相談体制の周知と積極的な声かけ 職員研修の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 相談窓口を設けて体制を整えている。 折に触れて非違行為の根絶を呼びかけている。また、職場全体としての非違行為に対する意識を高めるために校内研修を行った。 	引き続き相談しやすい体制と適切な研修をとりながら進めていきたい。
36	岳陽塾実行	土曜日を活用した自主的、主体的な学習の場である岳陽塾の円滑な運営を図る。	1	<ol style="list-style-type: none"> 土曜日補習の充実を図る。 岳陽アカデミーの推進を図り、岳陽塾と連携しながら学力の向上を図る。 	学習指導係の計画に従い土曜日補習、模擬試験を実施した。岳陽アカデミーでは、信州サイエンスミーティングや、池袋サンシャインシティで行われた大学説明への参加費を支援し、生徒の進路意識を高めることができた。	岳陽アカデミーにおける外部講師の活用に関しては、具体的な検討をさらに進めなければならない。
37	ビジョン	本校が、どのような「学び」を目指し実現するのか、中長期ビジョン・戦略と短期ビジョン・戦略について検討を進める。	1, 2, 3	<p><中長期ビジョン・戦略></p> <ol style="list-style-type: none"> 知徳体を育む学校のあり方と人口減、労働形態の変化等に対応した10年後の本校の将来像について <p><短期ビジョン・戦略></p> <ol style="list-style-type: none"> 普通科生徒の進路実現と学力向上の方策 課題研究のあり方 新テストへの対応 地元中学校との連携 	本校のグランドデザインと、「生徒育成方針」「教育課程編成・実施方針」「生徒募集方針」の策定に向けて、職員研修を実施し、本校の現状についての共通認識をはかり、将来ビジョンについての検討の意識を高めることができた。新テストに対応した授業改善に向けた学校視察を行った。授業公開やなどを通じて地元中学校との連携を行い、中学・高校間の相互理解を深めることが来た。また、生徒は中学校での学習支援体験等を通じて、キャリア意識の高揚につなげることができた。	引き続き、本校の将来像について検討を重ね、グランドデザイン、3つの方針を策定する。探求的な学びを通じて、学力の向上をはかれるよう、探求活動の充実を図る。